

ジオ太とジオ美の旅

⑥五社堂付近・春の妖精たち

「いよいよ4月。春に咲く美しい妖精たちを観賞したいね」「それなら春の植物が群生している五社堂付近がいいわ。植物の進化も探りたいし」・・・。

「さあ、それでは五社堂への999段の石段を登っていきましょうか」と2人は登り始めました。まず目についたのが石の隙間に這えているコケ類。「植物が海から上陸してきたのは約4億数千万年前。その最初の頃の植物だね」とジオ太くん。「コケ類は森のサンゴと言われてるのよ。多細胞で孢子で増えるのよ」とコケガールのジオ美ちゃんは虫眼鏡でコケ類を見ている。

「そして植物に花が咲き始めたのは約1億数千万年前から」とジオ太くんは植物の進化について考え始めました。気がつくと、周辺に様々なスプリング・エフェラル(春の短い命)と言われる花々が群生しています。

「これはテレビドラマでも話題になったエゾエンゴサク(写真:右下)だわ。北海道と東北の日本海側でしか見られないそうよ。妖精たちの秘密の舞踏会という花言葉がまさにぴったりだわ」とジオ美ちゃんは花をじっと見続けています。もう少し登っていくと、今度はカタクリの花(写真:右上)を見つけました。ジオ太くんは「カタクリもエゾエンゴサクもアリ散布植物だね。種子にエアリオソームというアリが好む匂い袋がついていてアリが運んでくれるんだよ」と珍しく冷静に観察しています。

そのほかにも美しい春の花々があちこちに咲いています。「二酸化炭素を吸って酸素を大気に吐き出してくれる植物たち。そのお陰で私たちは生きていけるんだね」「植物を食べて私たちは生きているんだ」。地球の循環社会と植物の進化を肌で感じた2人は自然に感謝し、今まで以上に「植物を大切にしよう」と話し合いながら帰路につきました。

